

第 10 回 WCRP/RFP 世界大会
宣言文 (事務局訳)
ドイツ・リンダウ
2019 年 8 月 23 日

前文

我々、900 名の女性、男性、青年が、125 カ国から第 10 回 WCRP/RFP 世界大会に参加するためドイツ・リンダウに集った。我々はこれまでの 49 年間、平和構築と、最も支援を必要とする人々のために声をあげることを決意し、取り組んできたことを誇りに思う。我々は、慈しみの、思いやりの、そして愛の同盟である。我々は、さらに大きく成長し、輝きを発し続ける連合体——すなわち、レリジョンズ・フォー・ピースが喜びをもってその務めを果たす「共通の行動」を表明するものである。その点において、我々や我々の宗教コミュニティがさまざまな過ち——些細なことから重大なことまで——を犯してきたことに悲痛な思いでいる。宗教の誤用、特に暴力や憎しみを煽るために捻じ曲げられて利用されたことに胸を痛める。我々の同盟は、宗教の違いを尊重しながら、人々が求めてやまない平和のために奉仕するものである。我々は、聖なる存在がすべての人々に対し、共通善、互いの慈しみ、地球、そしてつながりあうすべてのいのちへの連帯責任を呼びかけていることを確信し、ここに希望を抱いて集っている。

人類家族が負う重荷はよく知られたものだ。我々は、戦争がいかに罪のない人々の命を奪い、犠牲にし、破壊するかを知りすぎている。我々は、極度の貧困がいかに重いものであるか、それが人の成長を妨げ、屈辱感を与え、搾取するかを知っている。人類家族の 10 パーセントは絶望的に貧しい状況にある。我々は、7,000 万人以上の人々が故郷に心安らぐ住み家を見つけられないことを知っている。彼らは難民や国内避難民であり、移住を余儀なくされている。我々は、核兵器がより近代化し、宇宙や人工知能が兵器に利用され、新たなエネルギー兵器がつくられるといった、恐ろしい、新たな軍拡競争に突入したことを知っている。悪化する地球温暖化、熱帯雨林の破壊、海洋汚染、いのちのつながりの断絶されることにより、これらの重荷はさらに深刻なものになっている。

また我々は、国際連合や人権・法制度・国際貿易を制定した国際協定の背後にある近代的な秩序の「枠組みを超えた危機」に直面している。あらゆる形態での自由と少数派の保護、我々の連帯の構造が世界中で攻撃の的となっている。経済的には、ほんの一握りの最富裕層が、最下層の 40 億人よりも多くの富を保有している。このような秩序の「枠組みを超えた危機」における政治的および経済的側面を悪化させ、「フェイク (偽) ニュース」が政治的・商業的利益に合わせる一方、「真実」の概念に挑戦する真の「枠組みを超えた危機」が今日存在する。今日、我々は不都合な真実と都合のよい偽造との間で揺れ動いている。

慈しみの実践：共通の未来のために——つながりあういのち

我々の心の最も内面的な聖なる経験と最も外面的な社会生活とは、レリジョンズ・フォー・ピースが「つながりあういのち」と呼ぶ積極的平和の状態で行うことを叫び求めている。我々が有するさまざまに異なる聖なる体験は、根本的にはみな関連し合っていることが明白である。つまり、もともと聖なるもの同士がつながり、聖なるものによって引き起こされ、あるいは受け入れられるすべてのものにつながっているのである。根本的に関連しあっているがゆえに、我々の幸福は本質的に共有されるものである。他者を助けながら、自分が助けられている。他者を傷つけると、自分自身を痛めつけることになる。我々の仲間である女性宗教者や青年の計り知れないほど貴重な役割を全面的に認め、かけがえのない貢献を継続的に主流としていく所存である。聖なる存在により、我々は互いに、また我々を支えてくれる地球に、責任を持つと同時に依存し合っていることを、さまざまな伝統が明らかにしている。つながりあういのちは、近代秩序が人間の尊厳を支えるあらゆる方法に働きかけるよう求めている。それはまた、建設的な精神に基づいて我々の宗教から補完的な貢献を提供するよう我々に求めるものでもある。近代秩序では、自由は根本的に重要なものであるとする認識に我々は賛同する。同時に、ニヒリズム（虚無主義）の絶望を越えて私たちを導き、無分別な消費主義というナルシズムを拒絶し、且つ、すべてのいのちを根本的に慈しむ、自由という聖なる基盤を、身をもって示すことを求めている。

人権とはかけがえのない重要なものだという取り組みに向けて、我々人間の可能性の形成を尊重する、習慣的な順応という美德を身につけることを基本的に配慮していることを付け加える。つまり、慈悲、思いやり、そして愛という最も高潔な心の状態への我々の可能性を含んでいる。我々にとって、高潔な心を持つための努力は孤独な行為ではなく、むしろ、それは寛容性やお互いの愛によってのみ達成できる「連帯感」の行いである。美德を身につけるとは、信頼のおける共同体を破壊するような無知、個人のエゴイズム、そして集団のエゴイズムに取り組むことである。

また、つながりあういのちは、権利として守られる人間の尊厳を、実際に広めるための努力において、我々すべてのために役立つ「共通善」の確固たる概念を求めている。我々にとって最上位の共通善は、それぞれの理解は異なっているが、聖なる存在である。共通善には、大気、水、土、そしていのちのつながりを持つ地球も含まれる。共通善には、彼女／彼の人間の尊厳を押し広げようとする公正な機構も含まれる。これらは、我々すべてに、つながりあった恩を感じる責務を呼び起こす。一人ひとりが共通善を頼るべきである。そして、それぞれが共通善を構築する手助けとなるべきである。

つながりあういのちのために、というのは具体的なものである。我々は、暴力による紛争を防ぎと変容させ、公正かつ調和のとれた社会を促進し、持続可能で統合的人間開発を育み、地球を保護することによって、つながりあういのちのため取り組んでいく。

暴力的紛争の防止と変容

我々は、幼児から大人に跨る宗教コミュニティ全体で、共通の価値観、宗教的リテラシー、そして平和の物語に焦点を合わせた平和教育を進めることにより、暴力的紛争の防止に取り組む。紛争を引き起こす要因に非暴力で対処する紛争管理のスキルを構築す

る。暴力的紛争を変容させる取り組みは、世界大会でミャンマー、コンゴ民主共和国、中央アフリカ共和国、ナイジェリア、南スーダンの宗教指導者によって実現された。また、我々の取り組みは、世界大会の全体会議にて、中東および北アフリカ地域の女性宗教者らによって発表された。さらに、南北朝鮮からの宗教者が朝鮮半島の平和を目指した環境の構築に取り組んだ。これらの宗教指導者は、パートナーとして、平和推進者として、そして癒しをもたらす人として、お互いを高めるため、世界大会で非公式に取り組んだ。

我々は、それぞれの国と地域での彼らの努力を支援することを約束する。我々は、暴力的紛争の変容には、痛みを伴う記憶の癒し、赦し、そして和解が必要であることを確信して、赦しと和解の平和憲章を採択した。我々は、癒しの取り組みをすべての紛争解決の活動に統合することを約束する。

核軍縮への取り組みを新たにするため、核兵器廃絶国際キャンペーン（ICAN）の全面的なパートナーになることを誓う。我々は、核兵器の存在を非難し、核兵器禁止条約への支持を確認し、教育や結集、そしてこれらの目的に向けての宗教コミュニティの関わりを進めていく。また我々は従来の兵器や核兵器、化学兵器、生物兵器、最新兵器など、すべての兵器の放棄を含んだ総合的軍縮に向けて早急に歩を進めることを要請する。

公正で調和のある社会を促進する

我々は、さまざまな宗教者や諸宗教組織が、力強い慈悲の実践の精神と公正さへの貢献と共に公正で調和のとれた社会を構築するために取り組んでいることを心強く思う。我々は、大規模な人々の移動、そして避難民の危機—難民や移民と彼らが定住する社会—から生まれる不公正さに正面から立ち向かう共通の行動を継続する。我々は、国際的な強制移住の課題を、行動に向けた優先事項とする。我々は“他者を歓迎する（welcoming the other）”という模範を示すことによって導いていく。我々は、公正で調和のある多様な社会を推し進め、構築し、維持するために必要不可欠な尊重、相互関係、連帯を人々の心に植えつけることを約束する。横断的な取り組みとして、共有される市民の美德と社会的多様性への深い認識に焦点を当て、幼児から大人までの宗教リテラシーを含んだ教育があげられる。我々は、宗教伝統や他の徳における遺産を横断し幅広く共有されている美德の宣言を基に「美德の同盟」を設立する。

我々は、子どもや弱い立場にいる個人・コミュニティを保護し、深刻な苦しみにあえいでいる人々の人権や幸福を訴えることを誓う。我々は汚職に反対し、グッドガバナンスを推し進めるために力強く声をあげ、行動を起こしていく。また我々は、世界中で道義的な信教の自由を確かなものとするように、市民社会のパートナーや政府と共にコミュニティ内で共通の努力に取り組む。我々、信仰を持つ者は、聖地を保護し彼らが安心できることを切望する。我々は、生きる平和の輪を形作るために「国連文明の同盟」との連携を通して暴力や冒涇に反対し、聖地の保存、保護を行う。

持続可能で不可欠な人間開発と地球保護

我々は持続可能な開発目標（SDGs）に明記された人間開発に取り組んでいく。我々は、SDGs に編み込まれている公正さや包括的市民権、機会の平等を推し進めることに

より、持続可能な統合的人間開発を発展させていく。我々は持続可能な消費や労働の尊厳、そして公平な富の分配に向けた個人の責務を擁護する。すべての人々の幸福のために、科学による考察を評価し、デジタル技術の進歩を管理する。我々は教育への普遍的なアクセス（誰もが教育を受けられること）を推進する。社会における女性と青年の役割、地域、地方、国際レベルの組織における彼らのリーダーシップの促進に引き続き務める。

我々は、気候問題に対し早急な行動に取り組む。地球保護に向け、「緑化のための集会」の促進など、宗教コミュニティを結集させる。環境悪化との闘いにおける指導者や協力者である先住民族の兄弟姉妹は、「母なる地球が苦しむと、人間も苦しむ。人間が苦しむと、母なる地球も苦しむ」ことを気付かせてくれた。我々は、地球を守り慈しむ人間として、「森林宣言を守る信仰」の取り組みを支持する。熱帯森林の破壊への意識を高めるだけでなく、霊性や持続可能性が衝撃的な危機にさらされていることをそれぞれの宗教コミュニティに伝えていく。生態系とのバランスが取れ持続可能な生活を送るために行動を起こし、熱帯雨林と先住民の権利を擁護する政府の政策を提唱する。そして、気候変動におけるパリ協定への誓いを果たしていく。

共通の行動への呼びかけ

我々は自身の宗教伝統の信条と異なる宗教への尊重の導きのもとで、つながりあういのちとしての積極的平和をもたらすよう個々に取り組む。我々は他宗教の誠実な信仰者や善意を持つすべての女性・男性とパートナーを組んで、次の行動を起こす。

- 積極的平和の教材や、経済平和機構との連携のもと諸宗教の文脈におけるワークショップを開発する。
- 紛争予防、転換、女性への暴力の問題を阻止する積極的な女性の役割のツールやトレーニングを開発する。
- 宗教伝統を超えた過去の痛みを認識し、赦しと和解の民間の行動を推し進める。
- 「赦しと和解の平和憲章」に述べられているとおり、和解は人々やコミュニティ間、国家間での積極的平和のきわめて重要な側面であるにとらえ、推進していく。
- 難民と移民の幸福のために活動し、共存と支援のプログラムを開発する。
- 宗教コミュニティにSDGs達成に向けて資源を投資することを求める。
- 核兵器廃絶のための国際キャンペーンを支援する全面的パートナーになることを約束する。
- 宗教伝統や他の美徳的遺産に広く共有されている「徳の宣言」に基づいた「徳の同盟」を発展させる。
- 諸宗教熱帯雨林イニシアチブと協力して、国民の意識を高め、気候変動に対処し、地球を保護する政策を提唱する。

賛同と祝福を頂けますよう、謹んでお願い申し上げます。